

【二月の言葉（平成三十年）】

「恥ずかしい」と思う心が

無くなっただことが「恥ずかしい」

相田みつをさんに『恥ずかしい私』という詩があります。

「あじさいの花を見ている私　あじさいの花に見られている私　花に見られては恥ずかしい　人間の私」私たちは花に見られて恥ずかしいといえる心を持っているのでしょうか？

八木重吉さんの詩に「花はなぜ美しいのか　ひとすじの気持ちで咲いている花、ありのままに咲いている花、その花に見られたら私たちは本当に恥ずかしいです。

私たちは、人によく見てもらいたいという気持ちが強く、自分を飾り、ごまかし、偽っています。問題は、飾り・ごまかし・偽っている自分に気づかないことです。

私たちは、仏さまに遇わねば自分の煩惱が見えないのです。自分の煩惱・恥ずかしさを気づかせてくださる仏さまの教えをよく聴聞しなければいけないのです。